

# バリアフリースーツリズム の未来を考える



## 伊豆大島



### 「伊豆諸島最大の活火山の島」

- あんこさんと椿の島
- 日本ジオパークに認定
- 日本唯一の砂漠「裏砂漠」
- 3つの国際優秀つばき園



## 伊豆大島について

伊豆大島は都心から約120km南の洋上に浮かぶ伊豆諸島最大の島で、島の中央部には標高758mの三原山がそびえ、現在も火山活動を続けています。また、富士箱根伊豆国立公園に属し、島の約97%が自然公園法によって規制されているため、自然景観と生態系が十分に保護されています。そして、全島いたるところに咲くヤブツバキはおよそ300万本ともいわれ、伊豆大島を象徴する木として愛されています。



火山活動の歴史と  
地球の息吹を感じる原始的な自然の数々





毎年美しい花を咲かせるやぶ椿は島内に自生・植林合わせて300万本あるといわれる



強い風が1年を通じて多く吹く大島は古くから椿の木を防風林として利用してきた



大島には美味しい食材が盛り沢山！



島寿司 (べっこう)

大島以外の東京諸島では、ワサビの代わりに辛子を使います

一方、大島では青唐辛子を使い「べっこう」と呼ばれています



## 伊豆諸島が生んだ奇跡の伝統食「くさや」



魚をさばく



漬け込む



洗う



干す

炭火の焼きたてが最高です！



## 東京観光バリアフリー情報ガイド

東京都産業労働局

東京都の人気スポットを巡る  
**東京観光**  
 バリアフリー情報ガイド  
 全35コース

Language 文字サイズ・色合い変更 検索する

トップページ コース一覧 お役立ちリンク集 PDFダウンロード

高齢者や障害者等の方々に安心して都内観光を楽しんでいただくことを目指して発信している「東京観光バリアフリー情報ガイド」  
 今後は、島しょ地域に関する情報も公開予定とのことです。

## 宿泊施設バリアフリー化支援補助金

TCVB 公益財団法人 東京観光財団  
 Tokyo Convention & Visitors Bureau

東京観光財団について | 事業概要 | 契約情報 | 賛助会員制度 | 採用情報

事業概要

各種補助金・支援助成金について

海外からの旅行者誘致に関する事業

ビジネスイベント誘致・開催に関する事業

地域の観光振興に関する事業

観光産業振興に関する事業

**宿泊施設バリアフリー化支援補助金**

東京都及び（公財）東京観光財団では、車椅子利用者や障害のある方など、あらゆる人が安全かつ快適に過ごすための環境整備としてバリアフリー化に取り組む宿泊事業者に対し、施設整備等に要する経費の一部を補助します。

※令和5年度募集を4月1日より開始しました。  
 申請が重なりますと通常期よりも書類の確認にお時間がかかる場合がございます。改修を伴う申請の場合、工期など余裕をもってご申請下さい。  
 また、本補助金は予算に達し次第、本年度の募集を終了いたしますので、ご注意ください。  
 ※活用事例はこちら（PDF:1MB）

東京都及び（公財）東京観光財団では、車椅子利用者や障害のある方など、あらゆる人が安全かつ快適に過ごすための環境整備としてバリアフリー化に取り組む宿泊事業者に対し、施設整備等に要する経費の一部を補助する「宿泊施設バリアフリー化支援補助金」を実施しています。

## バリアフリーに配慮したお店が生まれています



大島椿株式会社は伊豆大島の玄関口元町港前に日本茶カフェ「元町テラス」をオープン。ウッドデッキへのアプローチにスロープやバリアフリートイレを設置するなど様々な配慮が施されています。

17

## ユニバーサルデザイン7原則

- 原則1：誰にでも公平に利用できること
- 原則2：使う上で自由度が高いこと
- 原則3：使い方が簡単ですぐわかること
- 原則4：必要な情報がすぐに理解できること
- 原則5：うっかりミスや危険につながらないデザインであること
- 原則6：無理な姿勢を取ることなく、少ない力でも楽に使用できること
- 原則7：アクセスしやすいスペースと大きさを確保すること

ノースカロライナ州立大学 ユニバーサルデザインセンター「ユニバーサルデザイン7原則 Version 2.0-4/ 1/97」の日本語訳(<https://www.kenken.go.jp/japanese/research/hou/topics/universal/7udp.pdf>)より引用

18

## “わたしたち”のウェルビーイングへ

### Wellbeing

「Well = よい」と「Being = 状態、あり方」が組み合わされた言葉で、心身ともに満たされた状態であること

バリアフリーに配慮したハードの整備はもちろん大切だが、誰もが安心して楽しめる観光を目指すために、ウェルビーイングの対象領域を「わたし」から「わたしたち」へと広げていくこと、私たちひとりひとりが「わたしたち」のウェルビーイングを意識していくことが大切。

19

## 福祉理念の変化

社会的弱者を救うという福祉

**Welfare** (ウェルフェア) から  
自律的な活動や自己実現をとおしての福祉

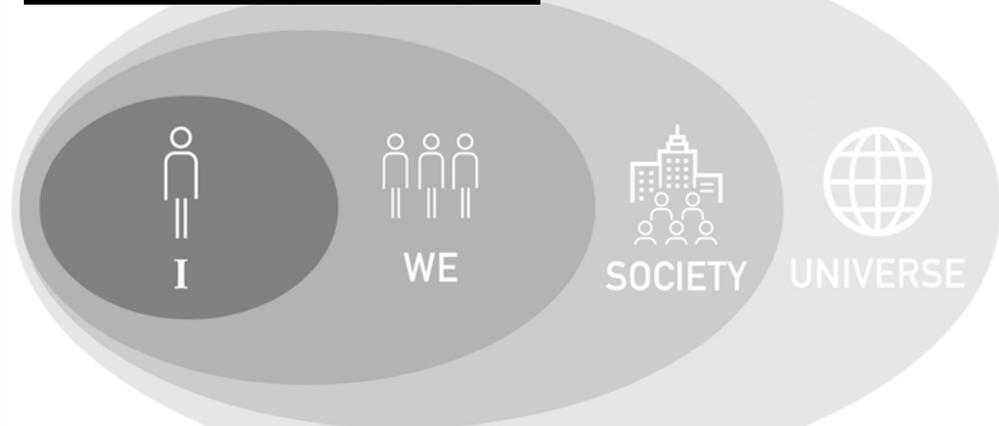
**WellBeing** (ウェルビーイング) へ

福祉の対象を保護や救済の対象と考えるのではなく、一人の人間としてその充足や自律性を積極的に尊重しようという考え方へと変化してきている。

「わたしたちのウェルビーイングをつくりあうために—その思想、実践、技術」(ピー・エヌ・エヌ)より引用

20

## “わたし”から“わたしたち”へ



“私”個人だけでなく、他社や社会、自然を含めた全体を自分ごととしながら、個人と全体の両方のよいあり方を実現していくことが大切。

“わたし”なき“わたしたち”は空虚であり、“わたしたち”につながらない“わたし”は孤独。

「ウェルビーイングのつくりかた「わたし」と「わたしたち」をつなぐデザインガイド」（ピー・エヌ・エヌ）より引用

21

## 注視による尊重

他者も自己も機械的に取り扱いがちになってしまう問題解決思考ではなく、個別のケースごとの違いを注意深く観察し、相互行為の当事者たちをケアする意識こそが重要。

「ウェルビーイングのつくりかた「わたし」と「わたしたち」をつなぐデザインガイド」（ピー・エヌ・エヌ）より引用

22

## “ゆらぎ”、“ゆだね”、“ゆとり”

バリアフリーツーリズムを考えた際に意識すべき3つの要素

「ゆらぎ」・・・適切な変化を見定める

「ゆだね」・・・他律と自律の望ましいバランス

「ゆとり」・・・目的ではなく経験やプロセスそのものの価値

「ウェルビーイングのつくりかた「わたし」と「わたしたち」をつなぐデザインガイド」（ピー・エヌ・エヌ）より引用

23

## 「旅」から“ゆらぎ”、“ゆだね”、“ゆとり”を考える

「ゆらぎ」・・・未知と既知の境界を行き来することで、自分が生きている普段の環境の固有性に気づき、それを相対化することができる

「ゆだね」・・・行き来する際の自律性を調整し、未知の環境を発見する体験に身をゆだねる

「ゆとり」・・・移動の快樂や好奇心といったポジティブな要素意外にも、心細さや不安といったネガティブな感情も含めて、行き来するプロセスそのものに価値を見出す。

「ウェルビーイングのつくりかた「わたし」と「わたしたち」をつなぐデザインガイド」（ピー・エヌ・エヌ）より引用

24

私の行きつけになる。

**TOKYO  
OSHIMA  
ISLAND**

